



# オリジナルグッズが一つから作れる コンセプトショップ

— B to C 開拓に挑戦，新たな印刷需要につなげる

(株)帆風

株式会社帆風（犬養新嗣社長，本社・東京都新宿区）は2018年1月から，オリジナルデザインでキャップ，ドリンクウェア，Tシャツやトートバッグなどが作れるコンセプトショップを展開している。都内3ヶ所（青山，渋谷，汐留）に店舗を構え，2ヶ月に一度，アイテムとディスプレイを変え，来るたびに新しい驚きや発見があるショップとして人気が高まっている。その狙いと戦略は……。



コンセプトショップ第1号店となる Vanfu Aoyama

## ■ 一般客に身近な「新たな窓口」

印刷需要の低迷が続く中，帆風は総合印刷会社として商業印刷を中心に事業拡大を続けている。フロントアドバイザーが常駐する店舗を都内14店舗，大阪1店舗で展開する一方，印刷通販サービス「Vanfu Online Shop」をはじめ，飲食店向け総合通販サイト「atta（アッタ）」，サロン専門印刷サイト「サロンプリント」などの通販サイトや，印刷物や文具などの発注業務を一括でサポートする購買管理システム「プリントマネジメントシステム」など，次々と新規事業を打ち出している。



オリジナルパーティグッズのトランプ，プロップス

今年から展開する新たなスタイルのコンセプトショップも、そうしたチャレンジの一つだ。

永田友里恵営業本部広報企画課リーダーは「これまでの店舗はもともと印刷ニーズのあるお客さまが中心だったが、一般のお客さまにも印刷を身近に感じてもらえるような新しい切り口として、コンセプトショップが生まれた。印刷会社とは普段関わりがない人でも、おしゃれな店構えにして誰でも気楽に店に入ってもらえるよう心掛けています」と話す。

コンセプトショップは、従来の店舗をリニューアルしたもので、今年に入りVanfu Aoyamaを人通りの多い青山骨董通り沿いに移し、1号店をオープン。同様に渋谷246号沿いの好立地にVanfu Shibuya、商業施設「カレッタ汐留」内にVanfu caretta Shiodomeをリニューアルオープンし、現在3店舗で展開している。

商材は2ヶ月に一度のペースで変えている。これまでにキャップ、ドリンクウェア（マグカップ、ボトル、枡）、トートバッグ・ポーチ、Tシャツ、パーティグッズ（トランプ、プロップス）と展開している。これらの商材は青山、渋谷、汐留の順にローテーションし、多くのお客さまにアプローチしている。

コンセプトショップでは、店頭においてあるサンプル品をそのまま購入することもできるが、商材の色・形・素材やデザイン・カラーを選び、名前やメッセージなど好きな文字や画像を入れて自由にカスタマイズし、世界に一つだけのオリジナルグッズを作ることができる。「様々なオリジナルアイテムを、自由に作る。大切なあの人に、心のこもったギフトを贈る。そんな“作ること”“贈ること”をあなたに楽しんでほしい」という想いをコンセプトに掲げている。



コンセプトショップの狙いや想いなどを語ってくれた、左から佐々木氏、永田氏、若杉氏、佐久間氏、西川氏

## ■ ■ 様々な印刷ができる会社と知ってもらう ■ ■ 一つの入口

コンセプトショップを始めてまだ1年経たないが、他では手に入らないオンリーワンのグッズは好評を得ている。しかし、各ショップは都内の一等地にあり、しかも人通りが多い路面店であるため、テナント料だけを見ても採算ベースになかなか乗らないというのが実情だろう。

佐久間康行営業本部統括マネージャー次長は「普通の人は用がなければ、印刷ショップに入ることはない。今回のコンセプトショップは、外から見たらキャップを展示していればキャップ屋さん、Tシャツを展示していればTシャツ屋さんしか見えない。来店をきっかけに、帆風のことや、当社が印刷会社であること、他にもいろいろな印刷ができることを知ってもらうことが大きな狙いとしてある」と指摘する。

青山のコンセプトショップでフロントアドバイザーの若杉遥子主任は「青山界隈にはおしゃれなアパレル店や雑貨店もあるので、ウィンドウショッピングとして当店に立ち寄られる方が多い。一般的な印刷ショップとは違って、全面ガラス張りオープンにしているので用がなくても気楽に覗いていかれる方や、定期的





渋谷246号沿いにあるVanfu Shibuya

にアイテムとディスプレイが変わるので『何の店だろう?』と気になって来店される方もいる」と話す。

さらに、コンセプトショップで接客対応する中で、制作・デザイン関係の仕事が増えているという。

若杉主任は「コンセプトショップでの商品依頼はテンプレートから選んでもらっているが、一般のお客さまの中にはパソコンを持っていない人や、イラストレーターなどデータに詳しくない人もたくさんいる。そういった方が来店され、当社で制作の仕事ができるということを知ってもらうことによって、パンフレットやDMなど、他の印刷物による制作の仕事をお願いされることもある」と相乗効果が出てきていると話す。

また、コンセプトショップではフロントアドバイザーのほかに営業もいるため、ロット数がある注文依頼や他の印刷受注につながる可能性がある場合など内容によって、接客担当から営業担当に引き継ぐ形を取っている。

佐久間次長は「来客数は増えており、過去のプリントショップ時代に比べ、3店舗をならして約2倍に増えているため、当社の認知が着実に広がっていると考えている。これからの状況を見ながら新たなお客さまの開拓について考えていきたい」と話す。

西川真奈美営業本部広報企画課部長は「ショップに

来店されたお客さまも会社に勤めていたり、家族がいたり、同僚や友達がいたりする。そこには新たな印刷需要の可能性があると感じている。ショップに来てもらって終わりではなく、当社としても新たなチャレンジであり、それぞれ3店舗でリアルマーケティングをしているような段階」と先を見据える。

同社では、最も使いやすい印刷会社を目指し、オンラインショップ、店舗、営業を「選べる3つの窓口」と呼

んで、顧客との接点を重視している。コンセプトショップは、新たな顧客を広げる窓口として期待を寄せる。

## ■ ■ パーソナライズ需要の可能性 ■ ■ 最新技術で印刷の幅を広げる

オリジナルグッズを一つから作るパーソナライズ需要に対応する帆風のコンセプトショップ。

同社では、立体物にインクジェット印刷ができる、ハイデルベルグ社製「オムニファイア250」(Omnifire250)を導入する予定だ。

オムニファイア250は、最新のインクジェット技術と精密なロボット技術を融合して開発された全く新しいデジタルプリンティングソリューション。

印刷したい画像を用意し、オムニファイアへ出力指示するだけでオブジェクト一つからオリジナルの加飾が行える。得意とするのはオブジェクトに対する360°の周径プリント。オブジェクトをつかんでいる軸が360°回転しながらプリントするので、立体物の縁や曲面などこれまでは加飾が難しかった部分へも印刷を行うことができる。

西川部長は「今年のIGAS2018と同時開催されたSPORTEC (スポーツ・フィットネス総合展) にハイ

デルベルグ・ジャパン株式会社さんと共同出展し、反響があった。来場したお客さまからも1個からフルカラーでボールなどの球体に印刷できるという点で好評をいただいた」と話し、今後もパーソナライズ需要に期待を寄せる。

B to BからB to Cへと新たな市場開拓を狙う帆風。同社の犬養社長は、今年1月に開いた帆風グループビジネスパートナーレセプション2018の席上、「1年で3つぐらい新たなビジネスモデルを常に発信し続けていかなければ、企業として衰退するという感覚がある」と述べ、持続発展するために常に新たな挑戦を続ける経営姿勢を打ち出す。これまで印刷業界になかった新しいスタイルのコンセプトショップの今後の注目される。



商業施設「カレッタ汐留」内にある Vanfu caretta Shiodome



今年のSPORTECにハイデルベルグ・ジャパンと共同出展。オムニファイアによるデモ実演を行い好評だった

### Vanfu Aoyama

所在地 東京都港区南青山5-4-30  
南青山YSSビル 1F

電話 03-5413-1470

営業時間 11:00~20:00  
(年末年始を除く)

### Vanfu Shibuya

所在地 東京都渋谷区渋谷1-1-7  
セントラル渋谷246 1F

電話 03-5485-7197

営業時間 10:00~19:00  
(土・日・祝日、年末年始を除く)

### Vanfu caretta Shiodome

所在地 東京都港区東新橋1-8-2  
カレッタ汐留 B1F

電話 03-5537-8161

営業時間 10:00~19:00  
(日・祝日、年末年始を除く)